

世界農業遺産に認定された美しい 棚田の保全活動

地域社会の振興機能

しろよね

白米 千枚田



春の千枚田



棚田オーナーによる田植え



棚田オーナーによる稲刈り

白米千枚田は、奥能登の山裾から海に向かっての急斜面を切り開いて作られた棚田。

海に面し、四季折々に変化する美しい棚田は、能登の里山・里海景観を代表する景勝地になっている。

その一方で、地域集落だけでの棚田の維持が困難になってきたことから、平成 19 年から棚田オーナー制度を設け、棚田を後世に残す活動に取り組んでいる。



わじま
石川県輪島市

〔地域社会の振興、景観の保全〕

棚田での耕作は、大型機械を使うことが出来ず、人手による多くの時間と労力を必要とし、高齢化、後継者不足で、地元農家だけでの維持が困難になってきたことから、棚田オーナー制度を導入。都市住民を始めとした、地域の農家以外の人々の耕作参加により棚田を維持している。

また、美しい景観を守りながら、棚田オーナーと地元との交流が地域に活力を与えている。

〔伝統文化の継承〕

白米千枚田を含む能登の伝統的な農村景観や農村文化は、平成 23 (2011) 年に日本初の世界農業遺産 (GIAHS) に認定され、棚田の保全を始めとして、地域の農村文化の保全活動が積極的に行われている。

〔生物多様性の保全、土砂崩壊防止〕

棚田が維持されることにより、棚田やその周辺にすむ生きものの多様性を保全。また、耕作放棄地が減少することで、土砂崩壊を防止している。



秋から冬に千枚田で行われる
「あぜのきらめき」



稲の生育と豊作を約束してくれる田の神をまつる儀礼「あえのこと」